

思いや気持ちをこめてのびのびと歌い

豊かに表現する子どもの育成

- 1 日時 平成29年9月29日(月) 13:00~17:00
- 2 場所 米子市立尚徳小学校(米子市榎原)
- 3 講師 全日本合唱教育研究会理事 前田美子先生
- 4 内容

【各校の課題について指導 13:00~13:40(前半) 16:10~17:00(後半)】

5校の先生たちが、自校の課題をもって、前田先生に個別に指導をしていただくことができた。指導助言は、どの学校にも通じるものがたくさんあった。

- 児童が音取りでつまづいているときは、音を下げても歌わせると音が取れるようになっていく。その後、歌えることを確認してから音を上げていくとよい。
- 声を響かせるためには、遠くへ声を飛ばすように意識させるとよい。グループで、問いと答えの形で歌わせたり、階段などの響く場所で歌わせたりするのも効果的である。
- 一人一人に合った声かけがとても大切である。
- どこで歌う時に息を入れたらいいか分かるようにするのが、指揮の大事なポイントである。

【公開歌唱指導 13:55~14:40】

尚徳小学校5年生を対象に歌唱指導が始まった。歌う曲は「小さな勇気」である。最初に全曲を通して歌ってみる。響きのある素直な歌声である。「上手だね。」の前田先生の一言で子どもたちの歌う意欲は、すぐに高まっていった。まずは、発声練習。といっても子どもたちは発声練習とは感じていない。ゲーム感覚で「チューリップ」の曲を「あ」を意識して歌わせることにより、歌声は一段と明るい響きとなっていった。その後は、一人ずつ、または数人ずつで「小さな勇気」のサビのフレーズを歌わせ、聴いている子どもたちに歌声についての感想を言わせたり、必ず良いところを褒めたりするなどして、児童は一人一人が自信をもって歌えるようになっていった。そして、参加者の先生方も子どもたちの前で歌う。前田先生の「どうでしたか。」の声かけに、子どもたちは「きれいな歌声だった。」などの答えを返す。最後はもう一度5年生の児童が全曲を通して歌った。自分たちのイメージに合わせて表現しようとする気持ちは更に高まり、力強さが加わったすばらしい歌声となった。

【実技指導 15:00~16:00】

講習会で歌った曲は、「小さな勇気」「Ave Maria」「はるなつあきふゆ」「小さな鳥の小さな夢」「たからもの」「チャレンジ」の6曲である。短い時間の中であつたが、たくさんの曲を知ることができ、指揮の仕方や歌詞の情景を思い描くことで、声こそろっていくことを実感することができた。また、子どもたちと同じように参加者の先生方も前田先生の指導により、歌うことの楽しさに引き込まれ、歌いたくなる環境を作りあげることの大切さをあらためて感じることもできた。「顔と心と体で歌えば必ず上手くなる」と言われた言葉は、とても印象的だった。

5 参加者の感想

- 一人一人がしっかりと自分らしさを出しながら歌えばよい歌になると言われたのが心に残りました。本当に毎回大切なことを思い出させてくださる指導で大変勉強になりました。明日からの指導に生かしたいです。
- 教師の指示ではなく、子どもたちを楽しませながら、またお互いの考えを聞き合わせる中で身につけさせたいことを自然に子どもたちが身につけていくというとてもすてきな指導でした。また、曲のとらえ方についても学ばせていただきました。歌詞の情景を思い描いた歌い方、とても参考になりました。
- 前田先生の指導を受け、とても前向きな気持ちになりました。歌って楽しい、歌うことはすてきなこと、今の気持ちを子どもたちに伝えたいです。合唱の楽しさを子どもたちといっしょに味わっていこうと思います。